

半期開示情報

当会の平成26年度上半期（平成26年4月1日から平成26年9月30日）における経営状況（単体）について、ご案内いたします。

～ 開 示 項 目 ～

- 主要勘定の状況 1
- 損益の状況 1
- 自己資本の充実の状況 1
- 金融再生法開示債権の状況 2
- 有価証券等時価情報 2
- 地域貢献情報 3～5

地域社会に対する基本的な考え方

業務を通じた地域貢献

地域密着型金融への取り組み

文化的・社会的貢献の状況

J A 広 島 信 連

◎ 当資料の金額は、原則として単位未満を切り捨てて表示しています。

単位未満の金額において残高のあるものは「0」、残高のないものは「-」で表示しています。

主要勘定の状況

(単位：百万円)

	平成 25 年 9 月末	平成 26 年 3 月末	平成 26 年 9 月末
貯 金	1,844,267	1,852,172	1,896,271
貸 出 金	72,955	72,801	68,466
預 け 金	1,243,076	1,277,564	1,331,481
有 価 証 券	630,183	618,733	610,597

(注) 貯金には譲渡性貯金を含んでいます。

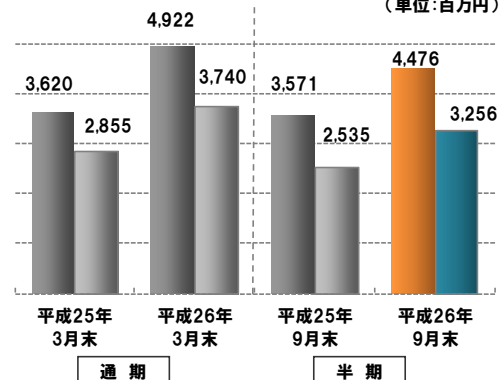
損益の状況

(単位：百万円)

	平成 25 年 9 月末	平成 26 年 3 月末	平成 26 年 9 月末
経常利益	3,571	4,922	4,476
当期剰余金	2,535	3,740	3,256

左：経常利益 右：当期剰余金

(単位：百万円)



自己資本の充実の状況

(単位：百万円)

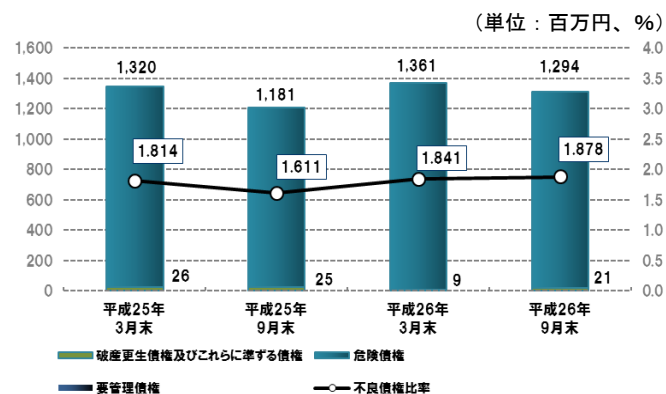
		平成 26 年 3 月末	平成 26 年 9 月末
自己資本の額	(A)	130,966	133,252
リスク・アセット等の合計額	(B)	467,598	472,815
自己資本比率	(A) / (B)	28.00%	28.18%

(注) 金融庁・農林水産省告示第2号「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」に基づき算出しています。

金融再生法開示債権の状況

(単位：百万円)

	平成26年 3月末	平成26年 9月末	増減
破産更生債権およびこれらに準ずる債権	9	21	11
危険債権	1,361	1,294	△67
要管理債権	—	—	—
小計	1,371	1,315	△55
正常債権	73,102	68,736	△4,366
合計	74,474	70,052	△4,422



(注) 金融再生法開示債権は、貸出金および貸出金に準ずる債権（未收利息、仮払金、債務保証見返）の各勘定について、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」（平成10年法律第132号）第6条に基づき、債務者の財政状態および経営成績等を基礎として、次のとおり区分したものです。

- ①「破産更生債権およびこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権をいいます。
- ②「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状況には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。
- ③「要管理債権」とは、3ヵ月以上延滞債権で上記①および②に該当しないものおよび貸出条件緩和債権をいいます。
- ④「正常債権」とは、債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、上記①から③までに掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。

有価証券等時価情報

【有価証券】

(単位：百万円)

平成26年3月末			平成26年9月末		
取得価額	時価	評価損益	取得価額	時価	評価損益
574,775	618,733	43,957	561,169	610,597	49,428

(注) 1. 有価証券は、すべてその他目的で保有しているため、保有目的区分による開示は省略しています。

2. 時価は、各基準日における市場価格等に基づいて算出しています。

3. 取得価額は、取得原価または償却原価によっています。

【金銭の信託】

(単位：百万円)

区分	平成26年3月末			平成26年9月末		
	取得価額	時価	評価損益	取得価額	時価	評価損益
運用目的	—	—	—	3,000	3,111	111
満期保有目的	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	2,000	1,998	△1
合計	—	—	—	5,000	5,109	109

(注) 1. 時価は、各基準日における市場価格等に基づいて算出しています。

2. 取得価額は、取得原価または償却原価によっています。

地域貢献情報

地域社会に対する基本的な考え方

当会は、JAをはじめ関係団体が会員となり、ともに助け合い、ともに発展していくことを理念とした、いわば相互扶助型の農業専門金融機関です。同時に、広島県を事業区域とし、地域経済・地域社会の発展に貢献することを使命とする地域金融機関でもあります。「JAバンクを地域の皆さまに選ばれる存在とすること」というビジョンのもと、理想的な地域との関わり方、望ましい地域貢献のあり方について、JAバンクが一体となって常に考えていきます。

業務を通じた地域貢献

当会の資産は、その大半が県内JAからお預かりした貯金で構成されています。そして、JAの資金は、JAが農家組合員や地域の皆さまからお預かりしたものです。当会では、このかけがえのない財産を安全・確実にお守りすると同時に、これを原資とし、資金を必要とする農家組合員の皆さまや農業関連団体、地域の皆さま、地元企業、各種団体等へご融資しています。

○地域の皆さまからの資金調達の状況

(単位：百万円)

	平成26年 3月末	平成26年 9月末	増減
会 員 (うちJA)	1,846,908 (1,825,337)	1,891,901 (1,868,516)	44,993 (43,179)
その他 事業者等	5,264	4,370	△893
合 計	1,852,172	1,896,271	44,099

(注) 会員には、みなし会員（非営利法人等）等が含まれています。

JAバンク広島では、皆さまに喜んでいただける貯金商品として、平成26年6月2日から12月30日まで、県内JA統一企画の懸賞品付定期貯金『当たってええJAん2014』の取り扱いを行っています。

○地域の皆さまへの資金供給の状況

(単位：百万円)

	平成26年 3月末	平成26年 9月末	増減
会 員	8,459	6,627	△1,831
地方公共 団体等	426	395	△30
その他 事業者等	63,915	61,443	△2,471
合 計	72,801	68,466	△4,334

(注) 会員には、みなし会員（非営利法人等）等が含まれています。

この他、(独)住宅金融支援機構、(株)日本政策金融公庫等の受託貸付金として206億円のお取引があり、今後とも地域の皆さまへの資金供給を積極的に行います。

地域貢献情報

地域密着型金融への取り組み

○中小企業の経営の改善および地域の活性化のための取り組み等

当会は、農業および地域金融における円滑な資金提供を最も重要な社会的役割の一つとして位置づけ、その実現に向けて取り組んでいます。

当会では、「金融円滑化にかかる基本方針」を制定し、取り組み態勢を強化するとともに、お客さまからのご相談等には、より真摯な対応を心がけています。

また、当会では、中小企業の経営者等による個人保証について、「経営者保証に関するガイドライン」を遵守した取り扱いを行っています。

【平成26年9月末時点の当会の金融円滑化に係る取組状況】

	債務者が中小企業者である場合	債務者が住宅資金借入者である場合
貸付の条件の変更等の申込みを受けた 貸付債権の数	53件	1件
うち、実行に係る貸付債権の数	53件	1件
うち、謝絶に係る貸付債権の数	—	—
うち、審査中の貸付債権の数	—	—
うち、取下げに係る貸付債権の数	—	—

○農業メインバンク機能強化への取り組み

当会は、地域に貢献する地域密着型金融機関として、また、農業のメインバンクとして、多様なニーズに対応するとともに、農業金融機能の強化を図っています。主な取り組みについては以下のとおりです。

○農業金融専任担当者の設置

営業部に農業金融専任担当者を設置し、地域農業の担い手との関係強化・深耕を図るため、JAの担当者と同行訪問し農業資金の商品説明支援や、担当者のレベルアップを図るための研修・会議等を実施しています。

○農業者に対する金融対応力強化

将来的な地域農業の担い手として関係を再構築・強化すべき農業法人・大規模農家等をメイン強化先とし、訪問活動等を通じて資金ニーズの把握を行っています。

○担い手育成に向けた取り組み

JAにおける担い手育成の取り組みを推進・支援するため、JAの担い手金融リーダーを対象に、農業金融に係る知識・スキルの習得を目的とした研修を実施しています。

その他、広島県や農業法人協会等の諸会議へ参加することにより、JAへの情報の連絡・調整を行っています。

○JAバンク新規就農応援事業

新規就農希望者の独立就農を後押しすることにより、地域農業の振興・発展に貢献することを目的として、新規就農希望者を育成するための研修を行う研修受入先へ助成を実施しています。

○資金助成・利子助成

担い手の農業経営の負担軽減を目的として、JAバンク利子助成事業等を実施しています。

地域貢献情報

文化的・社会的貢献の状況

当会は、資金供給や経営支援等の金融機能のご提供だけでなく、教育活動や文化活動等を通じた地域の活性化についても、次のような活動に積極的に取り組んでいます。

● 社会貢献活動委員会の取り組み

当会では、平成25年度に社会貢献活動委員会を立ち上げ、新たな社会貢献に向けた取り組みを展開しています。

平成26年度上半期は、職員有志による清掃ボランティア活動『クリーン太田川』や『ごみゼロ・クリーンウォーク』への参加をはじめ、「広島市原爆ドーム保存事業基金」への寄付を行いました。



● サンフレッチェ広島への協賛



J Aバンク広島では、スポーツを通じた地域への貢献の一環として、サンフレッチェ広島との間でスポンサーシップ契約を締結しています。

スポンサーゲームにおいて、入場者を対象としたJ Aバンク広島のPR活動を実施し、地域密着に努めています。

● 「JAカップ3×3ビッグトーナメント2014」の開催

J Aバンク広島が特別協賛し、『JA Bank Hiroshima Presents「第21回 JAカップ3×3ビッグトーナメント2014」』を9月15日に開催しました。

会場となった広島県立総合体育館（広島グリーンアリーナ）には、456チーム・約1,800名の選手の皆さまが、熱戦を繰り広げ、約4,600名の来場者で盛り上がりました。

